

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 3 日作成)

小委員会名	鉄筋コンクリート厚肉壁式床壁 構造設計指針作成小委員会	主 査 名：今川憲英 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (壁式構造運営委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：稲井栄一
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築計画および構造計画上、有用なコンクリートの連続性を生かした立体的な鉄筋コンクリート造による厚肉の耐力壁とスラブより構成される構造を対象として、</p> <p>①耐力壁とスラブが同厚の架構の実挙動を実験や数値解析により検証</p> <p>②従来の壁式 RC 造や RC ラーメン構造の規定にない項目もあるため、対象構造のモデル化並びに限界値・応答値の評価法および配筋の検証</p> <p>③上の成果を基に「(仮称) 鉄筋コンクリート厚肉壁式床壁構造設計指針 (案)」を作成する。初年度：2012 年より進めてきた RC 厚肉床壁構造設計法検討WGの活動成果および活動を継承し、実験や解析を継続実施し、設計・評価手法の検討を行う。同時に、地震時の安全性評価のためのモデル化および限界値・応答値の数値的評価をまとめる。</p> <p>2 年度：初年度と同様の活動を継続し、かつ指針案に基づく検証結果の整理を行う。</p> <p>3 年度：「(仮称)鉄筋コンクリート厚肉壁式床壁構造設計指針 (案)」の原案を作成する。</p> <p>4 年度：同上指針の本文・解説案を作成する。構造本委員会の査読後、講習会を開催する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：今川憲英 (東京電機大学) 幹事：井上芳生 (UR リンケージ)</p> <p>委員：原隆 (徳山工業高等専門学校)、平松道明 (大成ユーレック)、猪田大介 (日建設計)、楠浩一 (東京大学)、清水良太 (TIS&PARTNERS)、鈴木英之 (安藤・間)、高橋智也 (大成建設)、カストロホワンホセ (琉球大学)、津田和明 (近畿大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	RC 厚肉床壁接合部の構造性能検討 WG：上記構造の構造設計指針(案)・同解説の作成に際しては耐力壁とスラブ接合部のモデル化や構造性能を明らかにする必要がある。既往の数少ない実験結果の検討および当該接合部の FEM 解析を通じて、構造性能を明らかにするとともに、小委員会が作成する構造設計指針(案)にその成果を反映することを目的とする。	
2014 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s5/s540/index_s540.htm

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 耐力壁とスラブが同厚の架構の実挙動を数値解析により検証するための解析的検討がなされた。</p> <p>2. 本構造のモデル化や限界値・応答値について、既往の論文の検証や、解析的検討がなされた。</p> <p>3. 担当委員案を作成し、各委員が提出した指針案に基づき内容の確認がなされた。適用範囲については、告示第 1026 号の規定に基づき、地上階数 5 以下、軒の高さ 20m 以下とし、それを超える場合は「限界耐力計算」により計算を行うことの確認がなされた。</p>
委員会活動の問題点 ・ 課題	<p>1. モデル化、特に扁平梁としての有効幅を解析や実験に基づき検証する必要がある</p> <p>2. 面内せん断力を受ける耐力壁・スラブ接合部のパンチング破壊防止算定式の妥当性の検証 (耐力壁長さ/耐力壁厚さの比の規定を含む)</p> <p>3. 面外せん断力を受ける耐力壁・スラブ接合部の主筋定着検討</p> <p>4. スラブの応力・変形解析方法と断面設計 (長期、短期、大地震動後)</p>